

報道関係者様各位

平成 24 年 7 月 17 日

## 大学等発行のオンライン ID に対する信頼性認定を開始 ～ID 連携の対象範囲拡大により教育研究 ICT 環境の拡充を支援～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所

国立情報学研究所（所長：坂内正夫、以下 NII）は、NII が中心となって推進する「学術認証フェデレーション<sup>※1</sup>」（以下「学認」）に参加する大学等が発行するオンライン ID とその ID を用いた認証の信頼性の評価を行う評価人について、このたび米国 Open Identity Exchange 社<sup>※2</sup>（以下、OIX）より認定を受けました。

この認定により、一定の条件を満たすことが確認された「学認」参加機関を OIX に登録することができるようになり、米国連邦政府機関である NIH（国立衛生研究所）、NLM（国立医学図書館）、LOC（米国議会図書館）等が提供するサービスに対して、登録された大学等が発行するオンライン ID を用いたアクセスが可能となります。

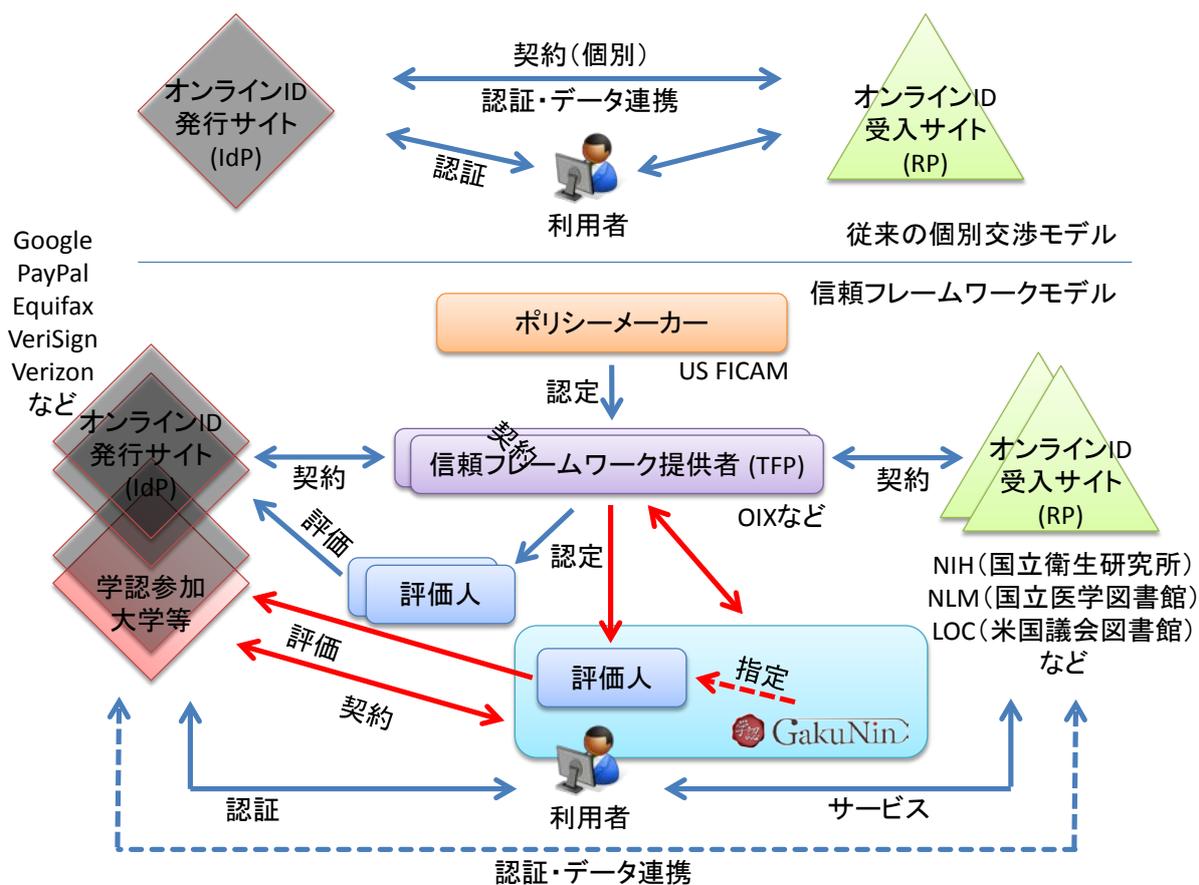
このような信頼フレームワーク<sup>※3</sup>の構築により、これまでそれぞれ異なるルールや技術を用いて構築されてきたサービスがシームレスにつながり、組織や業界、国境を超えた柔軟な認証が可能になり利便性が向上するとともに、さまざまな利用者情報を安全にやり取りすることが可能になります。「学認」はこのような信頼フレームワークを構築するアジア初の組織となります。

### 概要

今回の認定により保証されるのは、米国 FICAM（Federal Identity, Credential and Access Management）信頼フレームワークにおいて規定される第 1 保証レベル（Level of Assurance 1、LoA 1）です。4 段階の保証レベルのうち最も簡易なものですが、利用者のプライバシーを保護しつつ同一人物であることの認証が可能であることが保証されます。OIX は FICAM の信頼フレームワーク提供者採用プログラム（TFPAP、Trust Framework Provider Adoption Program）に参加する民間組織の 1 つで、従来の枠組みでは、大学等が直接 OIX の下で評価を受ける形でしたが、今回の認定により「学認」として大学等の評価を行うことができるようになりました。これにより、評価および登録にかかるコストを抑えつつ、短期間で NIH が提供する PubMed（日本を含む世界約 80 カ国で発行される生物医学系文献の検索サイト）を始めとした海外のサイトとの接続が可能になります。また、最初の事例として、京都大学が OIX への登録のための「学認」による評価に参加予定です。

米国 FICAM をはじめとする信頼フレームワークは、オンライン ID（Web サイト等にアクセスするためのユーザ ID と本人確認のためのパスワード）を信頼して利用できるようにするための技術とルールを定めるものです。そのような信頼フレームワークが世界的に広く共有されることにより、オンライン ID を提供する様々な組織と、ID を受け入れる様々な組織とが素早く安全に連携できる、デジタル ID のエコシステムが実現されます。そのようなエコシステムが実現されることで、ユーザが記憶しておくべきパスワードの数を少なくし、ID 窃盗による社会全体のリスクを低減することが可能です。また、ID 提供側と ID 受入れ側との信頼関係の構築が容易になり、従来は不可能だった、利便性の高いオンライン・サービスの創出が期待されます。

このような信頼フレームワークの活用事例として、「学認」では学生 ID のためのトラストフレームワーク（SITF、Student Identity Trust Framework<sup>※4</sup>）の構築に向けての検討を OpenID ファウンデーション・ジャパンの有志の会員企業と共同して進めており、当フレームワークに準拠した学生向けサービス（学割サービス等）の民間企業による創出を目指しています。



図：FICAM 信頼フレームワークに基づく「学認」によるオンライン ID の評価の枠組み

※1. 学術認証フェデレーション (学認) :

学術認証フェデレーションとは、教育や研究といった学術向けのコンテンツや情報サービスを利用する大学などと、それらを提供する機関（出版社、通信事業者、大学など）から構成された連合体です。各機関はフェデレーションが定めた規程（ポリシー）を信頼しあうことで、相互に認証連携を行うことができます。認証連携を実現することで、大学が発行する1つのID・パスワードをそのまま利用して、他大学や商用のサービスが利用できます。このとき、そのIDやパスワードがサービス提供者に知られることはありません。また、シングルサインオン技術を用いているため、複数のサービスを連続して利用する場合には、2回目以降のID・パスワードの再入力の必要もありません。例えば、他大学の無線LANをいつも大学で使用しているIDとパスワードで利用することができ、かつ自大学が契約している電子ジャーナルヘシームレスにアクセスすることも可能になります。学術認証フェデレーションの詳細な利点は、以下のURLを参照ください。

<http://www.gakunin.jp/>

※2. Open Identity Exchange (OIX) :

OIXは、サイバー空間上で最も重要視される“Trust (信頼)”を実現するための枠組みを提供する団体です。すでにインターネットでは、OpenIDやOAuth、SAMLといったIDに関する標準技術が普及していますが、テクノロジーだけでは「第三者が発行したIDをどうすれば信頼できるのか？」についての答えは出せません。OIXは、この課題について、ビジネス／法制度／ガバナンスなどの側面からソリューションを提供します。OIXは、Google、PayPal、AT&T、Verizon、Symantec、Booz Allen Hamiltonなどのメンバー企業から構成される民間の非営利団体です。

## ※3. 信頼フレームワーク :

信頼フレームワークとは、利用者に関するさまざまな情報を利用者本人の同意に基づき、事業者間で安全に流通させるための、ガバナンス／プライバシー／テクノロジーを包括する枠組みです。信頼フレームワーク提供者が、あらかじめ策定されたポリシーにのっとり、参加する企業を認定することで、サイバー空間をより安全で信頼可能なものにします。米国政府の国民ID戦略の中で採用されただけでなく、米国以外の政府や、ISO や ITU-T などの国際標準化団体、世界経済フォーラム（ダボス会議）などでもプロジェクト化され、普及に向けた国際協調や制度的／技術的相互運用性について議論されています。

## ※4. Student Identity Trust Framework :

学生が普段使っている大学発行のオンラインIDを使って、様々なサービスがネット上で学割サービスを提供できる信頼フレームワークです。利用者（学生）は、企業が提供するさまざまなサービスに大学発行のIDでログインできるだけでなく、「私は学生です」という属性情報を民間サービスに提供することで、「学生証を提示する」という行為が、オンラインで完結して実現できるようになります。その結果、利用者は、様々なオンライン学割サービス（例えば、オンラインメディアや旅行チケット、ソフトウェアなどの学割価格での購入）を受けることができるようになります。Student Identity Trust Framework は現在参加大学・企業を募集しています。詳しくは、5月17日に実施された [OpenID ファウンデーション・ジャパン主催のセミナー資料](#) を参照ください。

## &lt;&lt;本件に関する問い合わせ先&gt;&gt;

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術基盤課 学術認証推進室 特任教授 中村素典

E-mail : [motonori@nii.ac.jp](mailto:motonori@nii.ac.jp)

## &lt;&lt;報道に関する問い合わせ先&gt;&gt;

国立情報学研究所 総務部企画課 広報チーム（担当：坂内）

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

TEL : 03-4212-2164 E-mail : [kouhou@nii.ac.jp](mailto:kouhou@nii.ac.jp)